

国家主導型AI社会実装と ソブリンAIの戦略的再定義

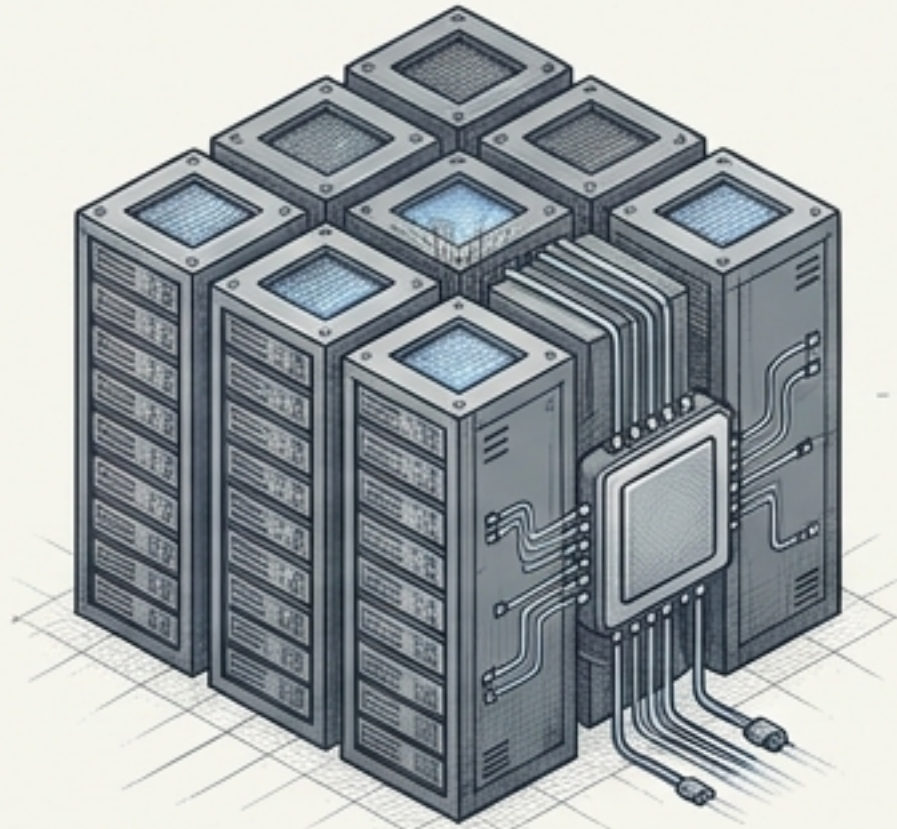
主要5カ国の政策比較から導く、
日本版「フィジカルAI」実装への構造的針路

STATUS: CONFIDENTIAL / STRATEGIC OVERVIEW

ルールの変更：AI競争は「開発競争」から「国家主導の社会実装」へ

Phase 1: 過去

民間主導・モデル規模・上流（計算資源）



Phase 2: 現在

国家主導・社会実装・下流（主権と経済への統合）

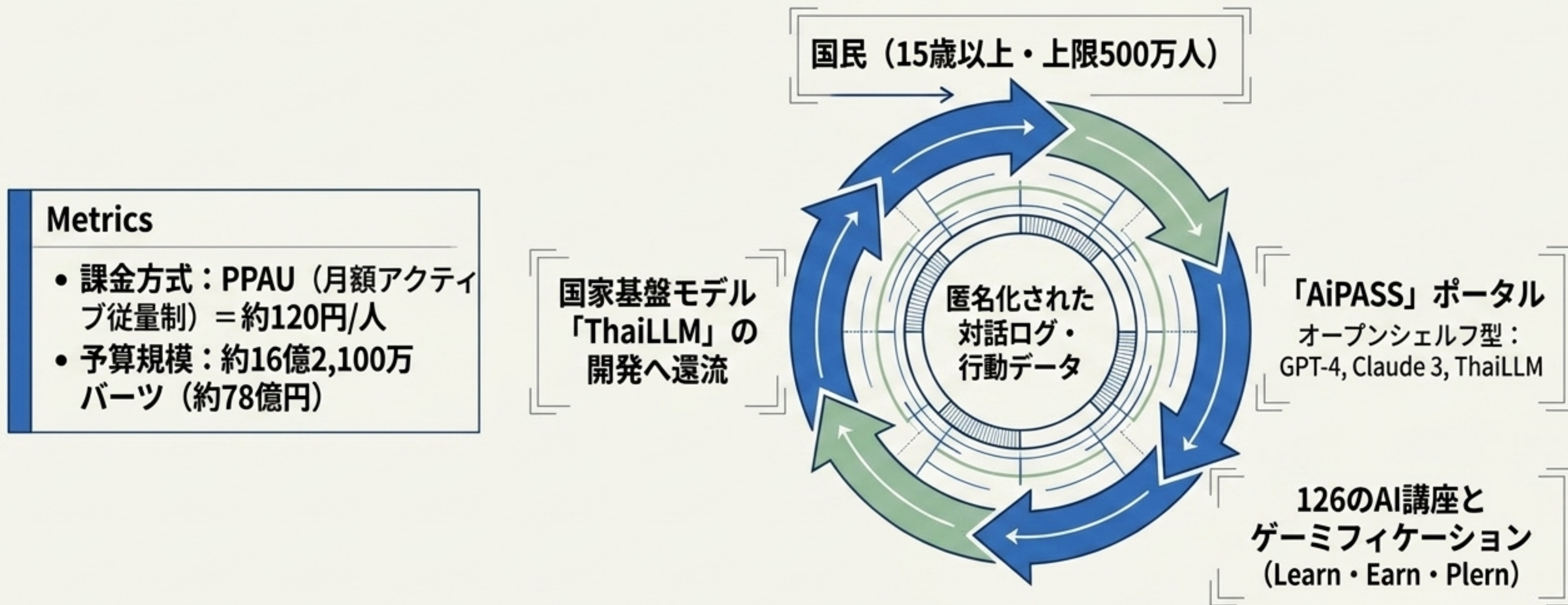


従来：政府の役割は「研究助成」と「倫理ガイドライン策定」に限定。

「主権AI（ソブリンAI）」を巡る
構造的競争への完全な移行。

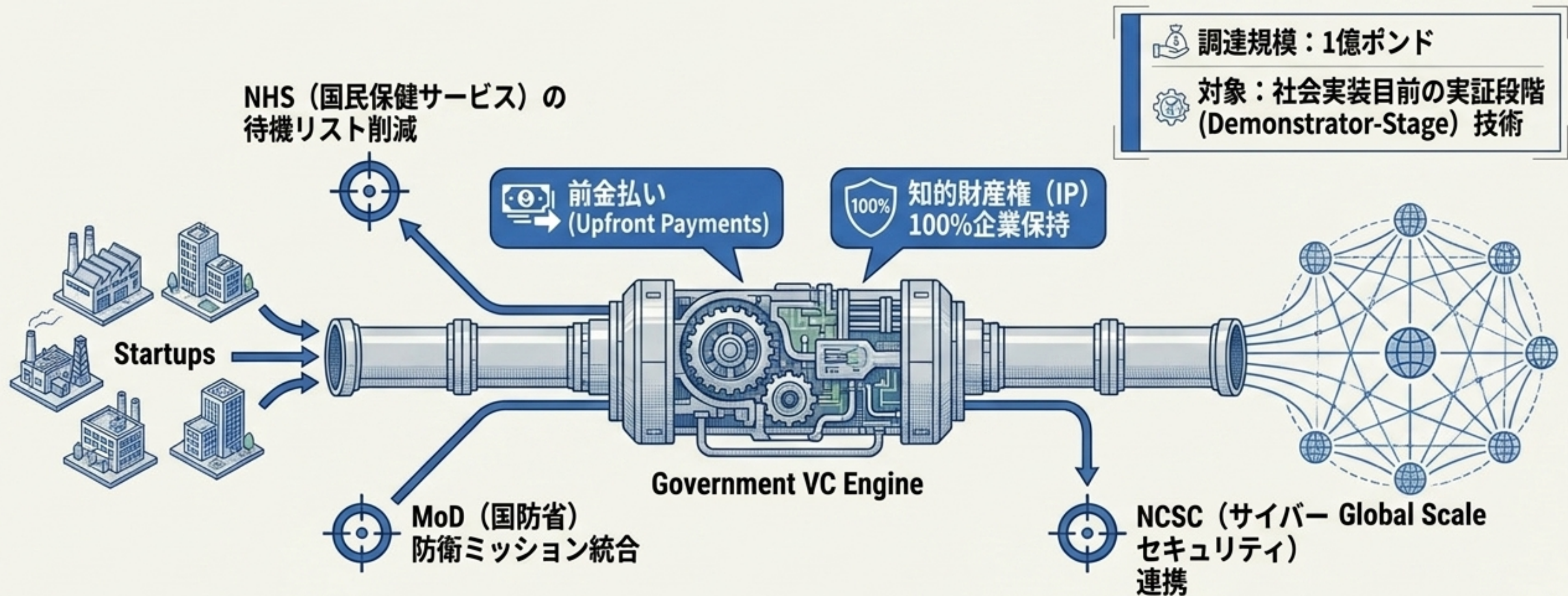
現在：国家自身が「最大の調達者（アンカーカスタマー）」、「生活基盤の直接提供者」、「現場実装部隊の組織化主幹」として市場の深部に介入。

タイ：実利的一括集積と「データフライホイール」型主権AI



巨額のフルスクラッチ開発を避け、グローバルモデルの利便性を提供しながら「データ主権」を回収する迂回戦略。

英国：VC型公共調達による新興企業育成と公的課題の解決



過去の実績を問わず、国家が「最初の顧客（アンカーバイヤー）」となり、IPを完全譲渡することで自国企業のグローバルスケールを牽引する。

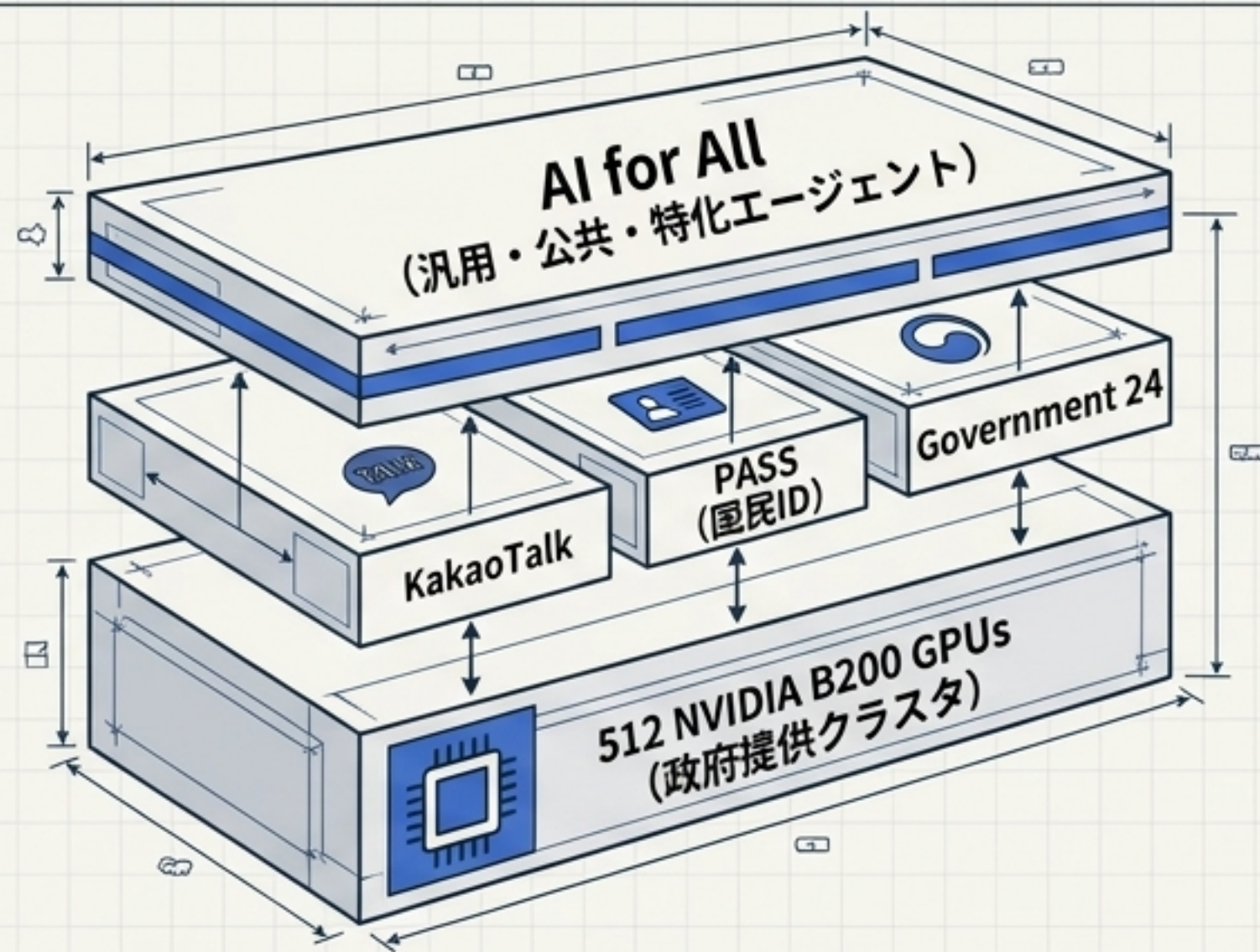
韓国：「AI for All」 構想と厳格な二軸管理による排他的エコシステム



「国産モデル」
出力が全体の50%以上

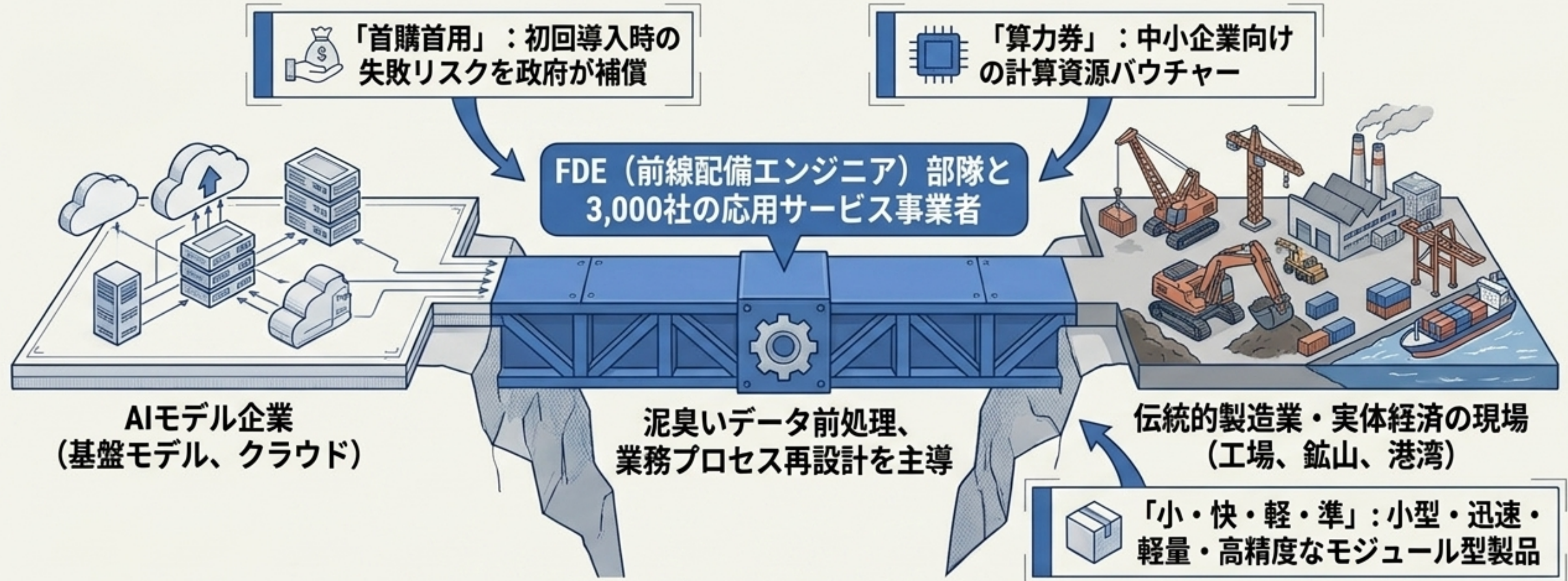


「幹事企業外のお社製モデル」
出力が全体の30%以上



外資系APIへの公金流出を遮断し、寡占を防ぎながら国内スタートアップに安定したトークン需要を「強制創出」する自立的防衛網。

中国：ラストワンマイルを突破する「前線配備エンジニア (FDE)」部隊



AIの知能競争ではなく、実体経済の現場に物理的に実装する「組織論的アプローチ」で米中デカップリングを突破する。

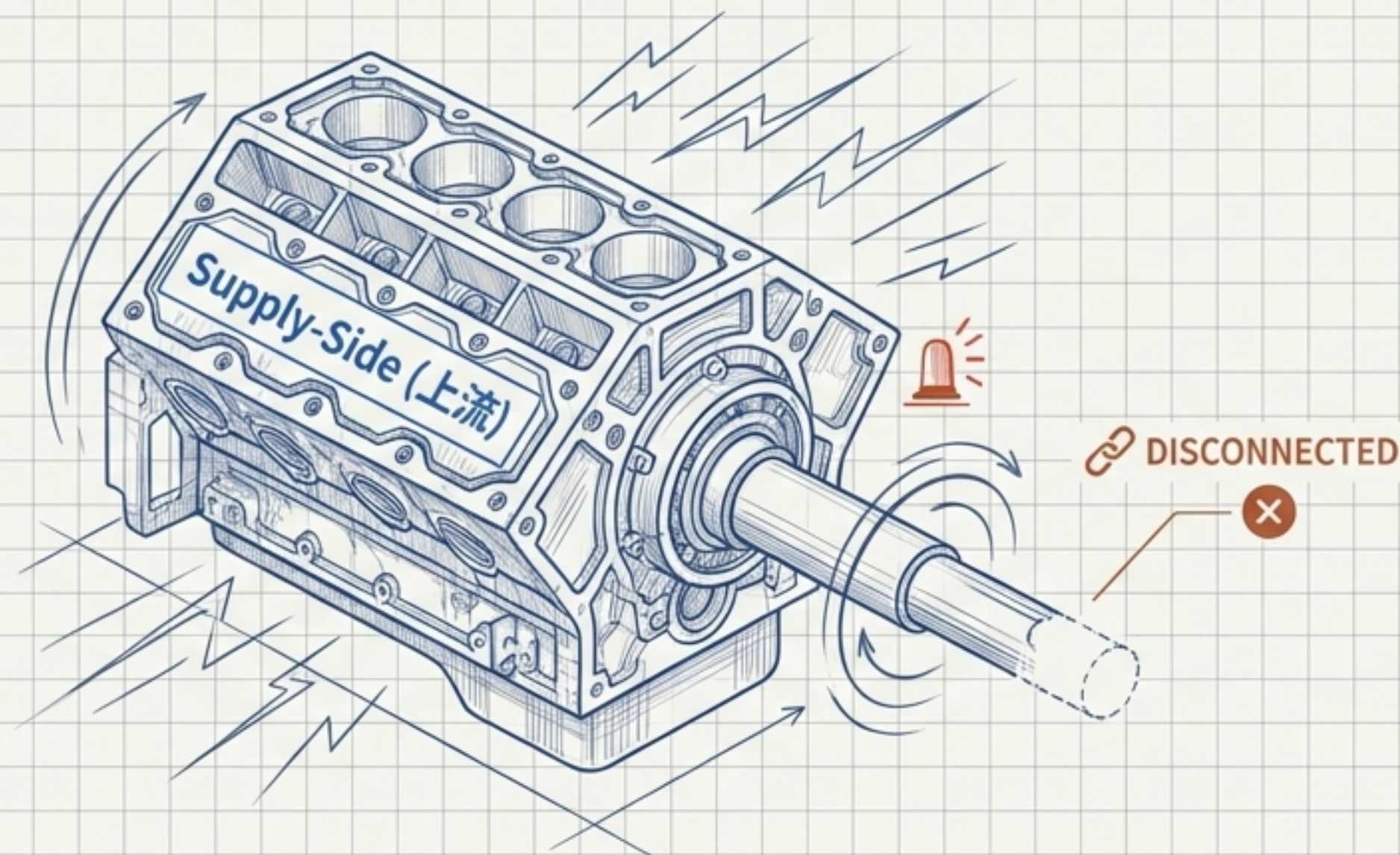


主要5カ国のソブリンAIアーキタイプ・マトリクス

	タイ (AiPASS)	英国 (Sovereign R&D)	韓国 (AI for All)	中国 (AI応用育成)	日本 (GENIAC)
[役割]	ポータル型 集積者	VC型アンカー バイヤー	社会インフラ 設計者	産業エコシステム 統括者	上流研究開発 インキュベーター
[アプ ローチ]	フライホイール (ログ還流)	重点領域の 内製・海外展開	排他的内製化 モデル	産業現場掌握 モデル	フィジカルAI 自律性確保
[調達]	PPAU・従量制	1億ポンド前金 ・IP付与	国産50/他社30 トークン規制	FDE組織化・ 首購首用	339億円の 計算資源助成

日本の現在地：GENIACを通じた「上流の供給側ショック療法」

- 経済産業省・NEDO主導「GENIAC」
- 累計約339億円の投資、GPU利用料（最大2/3）補助。
- 30件以上の基盤モデル開発プロジェクト（Sakana AI, Preferred Networks, 等）。



[SUCCESS]:

GPU不足という政策クライシスへの対処、フルスクラッチLLM開発能力の蓄積。



[LIMITATION]:

米中メガテックが主導する汎用LLMのスケール競争への単独対抗には財政的限界。



構造的断絶：サプライサイドとディマンドサイドを隔てる「死の谷」



日本の課題：研究費助成によるモデル開発後、社会実装と収益化を持続させる
「需要の強制創出」レバーが欠如している。

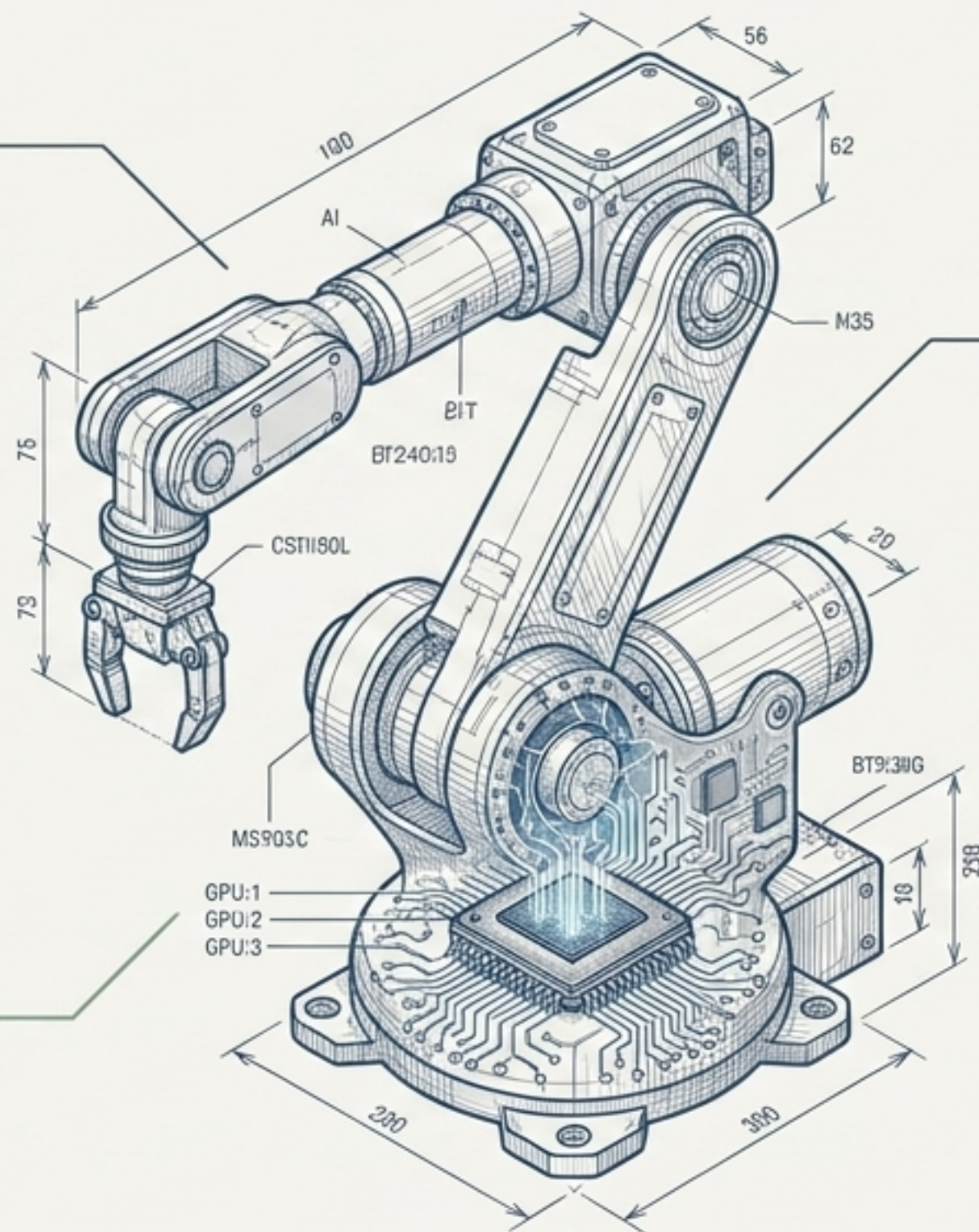
日本の戦略的ピボット：「フィジカルAI」による不可欠性の確保

汎用知能（テキスト空間）での消耗戦を回避し、日本が比較優位を持つ**物理世界**へ戦線を移動。

ターゲット：製造現場、精密機械、自動運転、ロボティクス制御。

基盤整備：

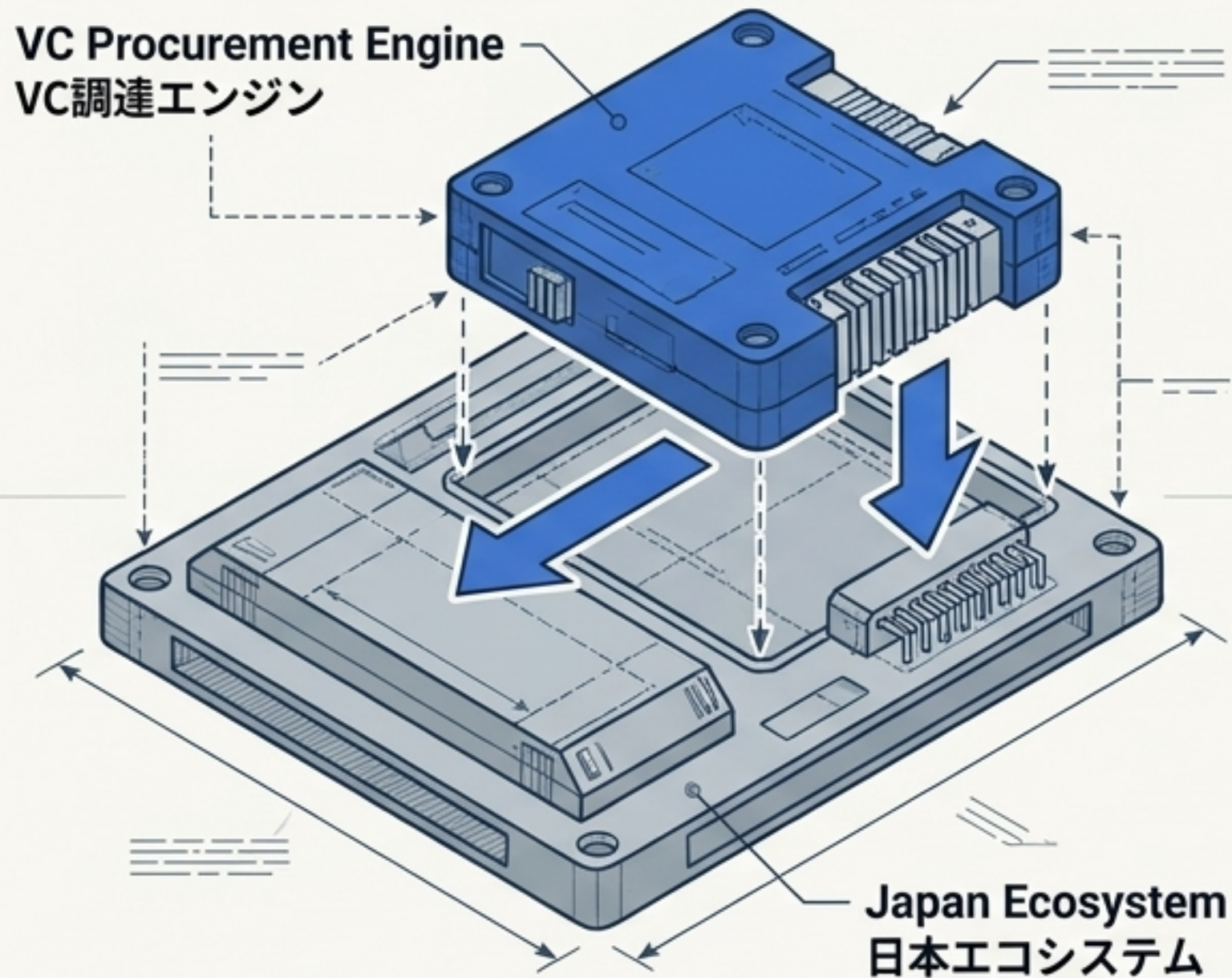
Rapidusへの巨額支援（約2.9兆円）、TSMC熊本工場助成、さくらインターネット等の計算基盤。



戦略的目標：

ハードウェアと制御ソフトウェアの摺り合わせ領域にAIの神経系を形成し、国際サプライチェーンにおける「**不可欠性 (Chokepoint)**」を握る。

実装アプローチ①：公共調達「VC型改革」（英国モデルの統合）



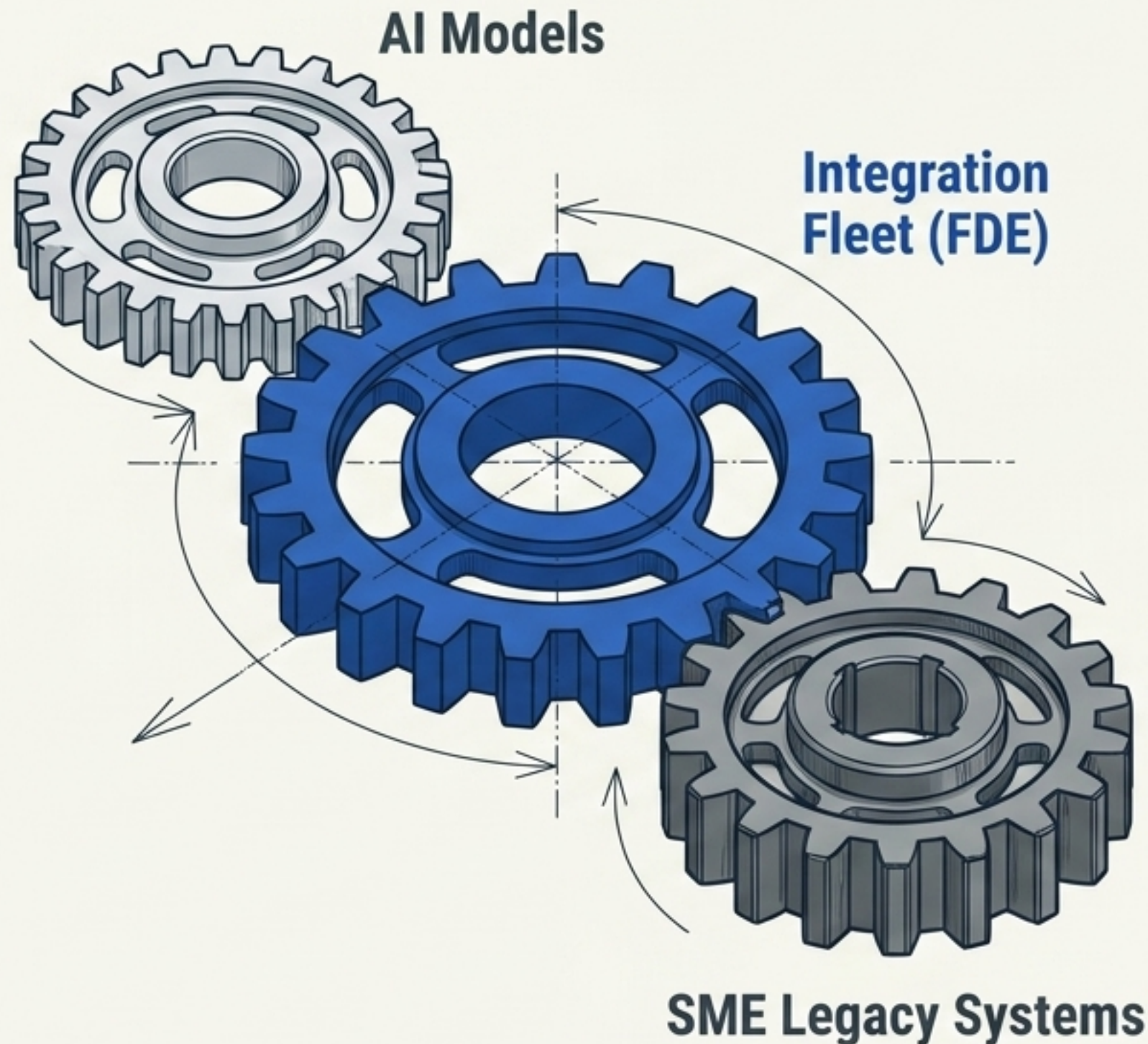
アンカーバイヤーとしての政府：従来の厳格な過年度実績要件を撤廃し、ディープテック/AIスタートアップの実証段階技術を直接調達する。

リスクとインセンティブの再設計：初期導入リスクを官民で分担し、前金払いを導入。

IP帰属の転換：受託開発された知的財産（IP）をスタートアップに100%保持させる標準契約モデルの確立。

Outcome: 開発されたフィジカルAI技術の初期キャッシュフローと社会実装実績を担保する。

実装アプローチ②：「現場統合型人材」の組織化（中国モデルの統合）



日本版FDE（前線配備エンジニア）の創設

ロボット基盤モデルを単なる技術実証で終わらせず、中小製造業や医療・物流現場へ定着させる専門部隊。

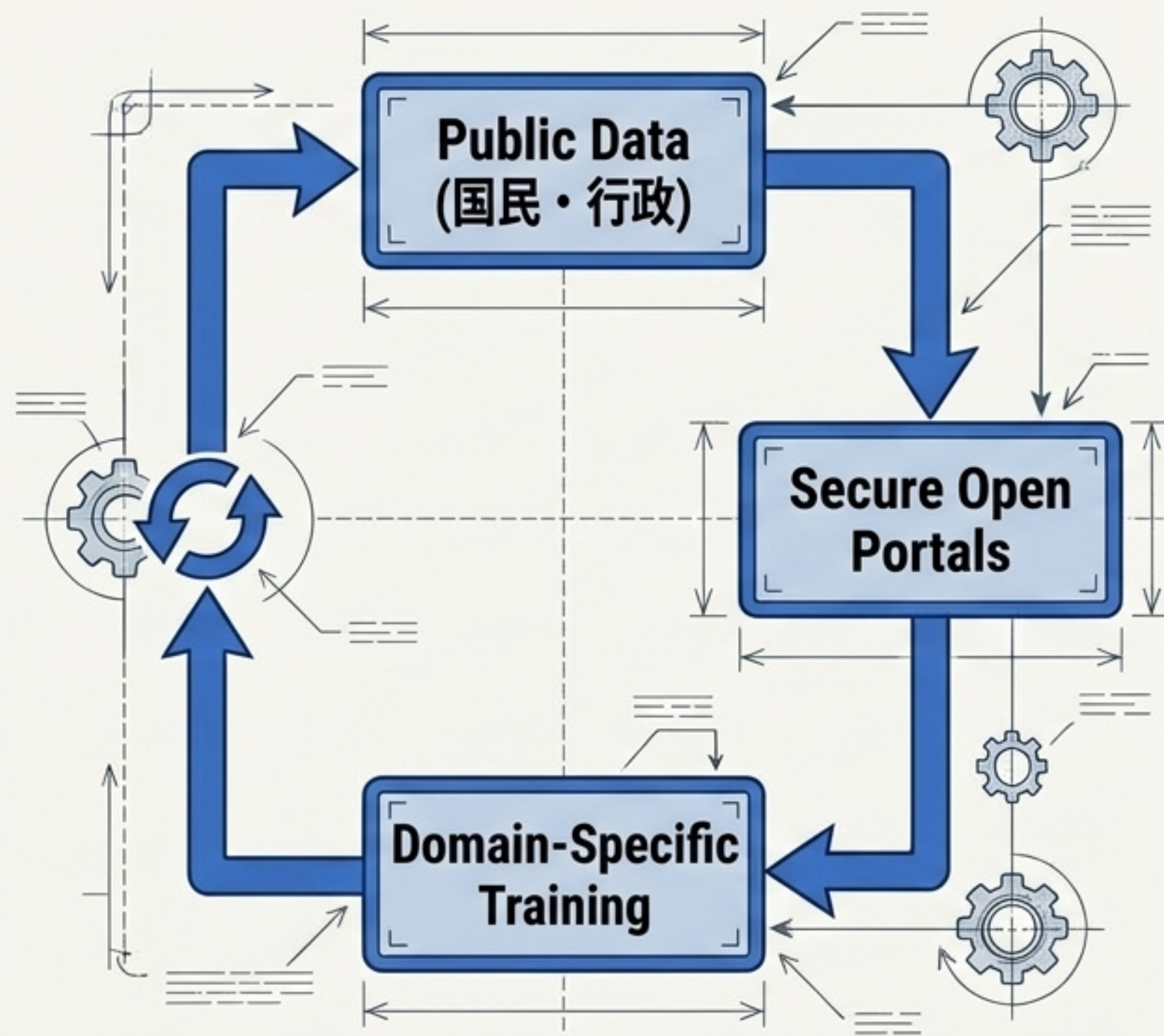
泥臭いラストワンマイルの突破

現場のドメイン知識をAIモデルにフィードバックし、レガシーシステムとの独自の通信プロトコル統合を担う。

国家リソースプールの設計

システムインテグレーションを担うSierや現場技術者のリスクリングを強力に支援し、実装部隊を量産する。

実装アプローチ③：特化型データ還流ループの構築（タイモデルの統合）



オープンポータルを活用：デジタル庁の行政インフラ（例：ガバメントAI「源内」）や教育基盤を通じ、安全なマルチモデル環境を国民・行政に提供。

持続的なデータ循環構造：プライバシー保護の元で対話ログや行政手続きログを構造化・集積。

ドメイン特化モデルへの再投資：
回収したデータを、日本の強みである公共・行政特化モデルや、特定産業のフィジカルAI再学習データとして還元する。

次世代ソブリンAIエコシステム：日本版・統合アーキテクチャ



日本のAI戦略は「計算資源供給（クライシス対応）」のフェーズを終えた。自国の比較優位を核とし、世界最良の実装モジュールを統合した「総合的な社会実装競争」へ舵を切る。